

広報 じんけん

編集・発行／川西市人権推進課
〒666-8501 川西市中央町12-1
TEL 072-740-1150
FAX 072-740-1151

～ 出会い 気づき 発見 ～

人権擁護都市宣言・非核平和都市宣言のまち

12月4日から10日は人権週間です

※12月10日は
世界人権デー

～だれもが幸せを感じるまちをめざして～

人権擁護都市宣言

川西市では、平成3年に「人権擁護都市宣言」を行い、現行の「川西市人権行政推進プラン」にもとづき、だれもが幸せを感じるまちをめざして、人権行政を積極的にすすめています。
しかしながら、社会全体においては、特に近年では、インターネットやSNS(ソーシャル・ネットワーク・システム)などを利用した差別的な書き込みや動画投稿、個人への誹謗・中傷など人権を侵害する事案が増えています。
市では、今後も一人ひとりの人権が尊重される人権文化豊かなまちづくりをすすめていきます。

人は生まれながらにして自由かつ平等であり、人間として生きる権利を有しています。
私たちは、日本国憲法のもとにすべての人々が尊ばれ、基本的な人権が保障される住みよい社会が一日も早く実現することをめざしてきました。
それにもかかわらず、いまなお残る、さまざまな人権侵害の事実を見つめるとき、いまこそ市民一人ひとりが力を合わせ、すべての人々の人権が擁護され、だれもが誇れる明るく心豊かな川西市を築いていかなければなりません。
私たちは自らの人権意識を高め、人権尊重の輪を広げていくため、ここに市民の総意のもと、川西市を「人権擁護都市」とすることを宣言します。

平成3年(1991年)2月28日

川西市

人権週間 -特設人権相談の開設-

12月6日(火)13時～16時 市役所(庁内会議室等)

※人権擁護委員がお受けします。

予約優先 人権推進課 ☎072-740-1150 まで

人権週間映画会 12月8日(木) 入場無料



ところ みつなかホール 定員 各480名

※ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。
※当日先着順 入れ替えなし

※折り鶴平和大使による活動報告 15:00～15:20

破戒

日本語字幕付 2022年 日本 119分

上映時間 ①10:30～
②15:25～

コーダ あいのうた

日本語吹替 字幕付 2021年 米国 他 112分 PG12

上映時間 ①13:00～
②17:40～



島崎藤村・不朽の名作
「破戒」を60年ぶりに
映画化!

主演：間宮祥太郎

丑松(間宮)は、「人間はみな等しく尊厳をもつものだ」という演説会での猪子の言葉に強い感動を感じるが、その猪子は凶刃により命を落とす。この事件をキッカケに、丑松はある決意に至る…。

©全国水平社創立100周年記念映画製作委員会



2021年度
アカデミー賞
(作品賞等)
受賞! 作品

家族の中でたった一人「聴者」である少女・ルビーは、家族の「通訳」係だった。そんな彼女は「歌うこと」を夢みた。そして、彼女が振り絞った一歩踏み出す勇気が、愉快で厄介な家族も、抱えた問題もすべてを力に変えていく。日本でも公開し感動を呼んだ、フランス映画「エール!」のハリウッド版リメイク。

©2020 VENDOME PICTURES LLC, PATHE FILMS.

※当日は、新型コロナウイルス感染症対策にご協力をお願いします。

人権作文コンテスト 入賞作品

優秀賞

『私の宝物』

明峰小学校6年 金子 芽生さん



「ベイ・バイブ〜」
と弟はいつも私に言うてくれる。弟は21番目の染色体が通常よりも1本多く、3本ある。21トリソミー、いわゆるダウン症です。

みんなはダウン症と聞くと、かわいそうと悪いイメージをもつかもせれません。確かに弟は歩けるようになるのがおそかったし、同級生の子と同じ早さで勉強することは出来ないし、今でもつまくしゃべることができません。

まずは歩けるようになるために、病院でひざを曲げる練習をしたり、すわる練習をしたりしてきました。そのころ私もまだ小さかったので、練習しているビデオを見せてもらいました。何度失敗しても起き上がり、練習している姿を見て、弟がすぐがんばっているのうれしくなり、自分も負けられないと思いました。

私と同じ小学校に行けるようになり、私はとてもうれしくなって、やっといっしょに行けると思うとわくわく感が止まりませんでした。勉強もみんなよりゆつくりですが、少しずつ出来る事が増えてきました。発音も難しいので「音一生けん命練習しています。最初は、「ベイ・バイブ〜」と笑顔で言うてくれても私は全く何が言いたいのかわかりませんでした。でも今は、少しずつ上手になって、それで「めい大好き」と言うてくれることが分かりました。それに気づいた時は、弟が何度もがんばって伝えようと努力してくれていたんだなとも感動したのを覚えています。たくさん勉強すれば、こんなにも上手になれるんだなと感じ、もっといろんなことを弟に教えてあげたいと思いました。

「伝える」ということは、「言う」だけではありません。例えば何が言いたいのかを紙に書いてもらったり、ジェスチャーをしたりすることもできます。弟は学校でひらがなや漢字の練習をしてきたので相手が聞きとれない時は文字で伝えられることが増えてきました。何より弟はジェスチャーが上手でおもしろいことをよく言うので、弟といっしょに楽しく毎日過ごしています。

ある時、新聞で出生前診断という検査があることを知りました。その検査でお腹の赤ちゃんに染色体異常が見つかれば、約9割が中絶を選んでいるというのです。除中で手が汚れてベタベタの状態、掃除が終わるまで待つてほしいと祖母に言うていました。祖母は、「ベッドに移動させるのは10分で済む、早くして」と怒って、母は、「10分で終わらないですよ。ベッドに移してからもクッションを置いたり、飲み物やリモコンの設置とか色々かかると時間がかかるから、先にこちを終わらせるから、ちょっと待つて」と、言い争いになっていました。

私はその様子を黙って見ていましたが、祖母の顔がみるみる険しくなっていくのがわかりました。母も荒々しい口調になっていて、険悪な状態でした。

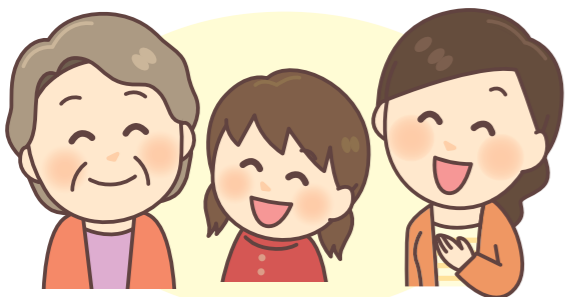
2人の言い争いに、父が立ち上がり、「僕が台所を片付けておくからお母さんのこと先にしてあげな」と言い、母は、汚れた手を洗い、フツフツ言いながら祖母のお世話をしていました。祖母もお世話されながら、フツフツ文句を言うていました。

祖母は、私が生まれる前、事故でせき髄損傷というけがを負い、下半身と上半身の一部が不自由になりました。私を知っている祖母は、車いすを利用して、母やおじやヘルパーさんのサポートを受けています。でも、手に装具をつけて、自分でご飯を食べ、お習字や絵手紙を楽しんでいます。旅行に行ったり、外食したり、祖母との思い出はたくさんあります。

祖母は、いつも私の話を笑顔で聞いてくれ、どんな時もほめてくれるし応援してくれます。もし、私が祖母のように事故にあつたらとても悲しいと思うけど、祖母はいろんなことに頑張っています。だから、私は祖母がすごいと思うし大好きです。祖母の家から自分の家に戻る車の中で、母が父に怒りをぶつけていました。「待つてくれてもいいのに」「そう言うていました。父は」「まあなあ」と答えていました。じいちゃんしたら、母は、文句を言うのをやめ、考えこんでいる様子でした。そして、「すんごいあげてもよかったのかなあ。私がいじわるだったかな」と小さな声でつぶやいていました。少し悲しそうでした。

私が母の立場なら、きつと手が油でベトベトだし掃除が終わるまで待つてほしいと思うだろうし、でも祖母の立場なら、すんごいベッドに移してほしいし、どちらの気持ちも分かるし、どちが正しいのか、むずかしいなと思います。なにより、祖母と母が言い争いやケンカをする姿は見たくないし、2人が嫌な気持ちになるのが、かわいそうに思いました。

それから数日後、私と母の2人きりになった時、母がケンカのことをごう思ったか聞いてきました。私は、「ママもおばあちゃんも悪くないよ。でもむずかしいよね」と正直に答えました。すると母は私に、「美彩があの時、台所のことか、おばあちゃんのことを何か手伝って



今年度も未だコロナ禍が続く状況下でしたが、多くの小・中学生の皆さんから応募いただきました。その中から入賞されました3作品をご紹介します。



もし、私の両親が検査を受け、中絶を選んでいたら、弟が生まれていなかったのかもしれないと考えるととてもショックを受けました。

私にとって弟はとても大切な宝物です。生まれてこなければよかったなんて思ったことは一度もありません。私は弟のすばらしさをみんなに伝えていくことで、まわりの人たちも幸せになっていることを理解してほしいと思っています。

弟の笑顔は私の家族を最高にハッピーにできる笑顔です。



優秀賞

『サポート』

清和台中学校1年 中山 美彩さん



今年のお盆に、母の方の祖母の家に行きました。祖父は私が生まれる前に亡くなっていて、祖母とおじさんが住んでいます。おじさんは仕事に行つて、いませんでしたが、ヘルパーさんが祖母のお世話をしていました。ヘルパーさんが帰った後、母が食事の用意をし、祖母と父と母、私たち姉弟の4人の7人で食事をしました。

学校のこと、友達のこと、習い事のこと、たくさん話を話し、祖母はとも楽しんでました。私たちが食事中、母は皆の料理を出したりお皿をさげたり忙しそうにしていました。全員が食べ終わる、食卓からソファに移動した後、母は皿洗いを始めました。そして、台所の食器がこやガスコンロがギトギトで汚れていると言いつつ、掃除をし始めました。

父と私たち姉弟は、ソファに座つて、のんびり過ごしていました。しばらくすると祖母が急に「早くして」と大きな声で怒鳴りました。祖母と母がけんかを始めたのです。

祖母は、体が不自由で車いすを利用しています。自分でベッドに行くことはできません。だから早くベッドに移すよう母に頼んでいました。しかし母は、台所の掃くれているなら、ママもおばあちゃんも、うれしかったかもね」と言いました。私には「何をか」を全く考えていなかったことに気付いたからです。

障がい者や介護が必要な人のサポートは、1人ですると、とても大変です。けど、皆がそれぞれできることをすれば、1人で抱え込まなくて済みます。直接的なサポートだけでなく、家事や手伝いすることもサポートになります。今回のことで、それに気づくことができました。

今度、祖母に会つたら「私にも何か頼んでね」と笑顔で言うつもりです。そして、母のことも、助けてあげたいなと思いました。

優秀賞

『ぼくと妹』

川西小学校3年 元尾 蓮さん



ぼくには、1年生の妹がいる。いつも仲良く学校に行つたり、遊んだりするけど、毎日、けんかをします。

この前も、いっしょにべん教をしていて、えん筆のとりに合ってしまった。どちが早く終わるかとかでけんかをした。そんな時、お母さんは何も言わずじつとその様子を見ていた。妹はすんごいお母さんに言いにくいって、けっきょくぼくがおられることが多いように思う。おられるのはいつもぼくで妹はすずいと思つて、お母さんは、ぼくと妹どちが好きなのだらうかと考え、じつじつ聞いてみた。お母さんは、とても悲しそうだった。

次の日、お母さんは、「ママどちがすき」という絵本をかりてきて、ぼくと妹に読んでくれた。その話は、ぼくと妹によく聞いていた。お母さんは、じつじつと二人とも大切な人だということ。お母さんともちがう1人の人間としてせいろ長すがた、お母さんの知らない世界をみせてくれてありがとうと言ってくれた。お母さんは、ぼくと妹、どちも大好きだと言ってくれた。

ぼくは、妹ばかりと思つていたけど、お母さんはきつとぼくがおぼえてない赤ちゃんのころから大切にそだててくれていたのだとわかった。妹は、ぼくとせいかくもせいべつもちがうけど、妹にもよいところはあつた。そんな妹をぼくは大切にしたいと思つた。そして、ぼく自身もよいところ、かたがたはあつた。自分を大切にしたいと思つた。お母さんは、ぼくと妹のすべをうけ入れてくれる大切な人だ。これからぼくは、たくさんの人と出会うと思つた。その時に、相手のよいところをみて、おたがいを大切にそだせたいとめ合いながらいいかんけいを作りたいと思つた。

(井上)

報道を通して見るだけでは分からない、その場にいる全員が平和な世の中を求めている式典での空気感と言葉では表現できないほど張り詰めていてとても印象的でした。黙祷では、会場で実際に黙祷をしたからこそ、ここにいる人たちだけでなく世界中で同じ瞬間に追悼の意を表し、平和を求める人が多くいることを実感することができました。また、こども代表による「平和への誓い」が印象に残りました。「過去に起こったことを変えることはできません。しかし、未来は創ることができます。」この言葉には、私たち若者にもできることはあり、諦めるのではなくできることから、着実に世界平和に繋げていくことが大切という



思いがこもっていると感じました。できることを模索し、考えるだけでなく行動に移していきたいです。

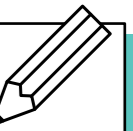
(甲斐)

広島市の市長をはじめとする方々が話されていたことは、どれも心に響くものでした。特に、こども代表の2人が平和への誓いで話していた内容を聞いていると、自分の大切な人が戦争で亡くなってしまうのは、本当につらくて、そこから立ち直ることも私はできないのではないかと思います。これから先、戦争が繰り返されないために、広島であった原爆被害のこゝろや一人ひとりのエピソードを、語り継いでいかなければならないと考えさせられました。



8月6日(土)平和記念式典

2022(令和4)年折り鶴平和大使のヒロシマ日記



川西市では、非核平和都市宣言の趣旨にのっとり、市民平和推進事業として、毎年「折り鶴平和大使」派遣事業を実施しています。

3年ぶりの派遣となった、今年度の折り鶴平和大使に選ばれたのは、川西緑台高校3年生の井上七海さんと緑台中学校2年生の甲斐純怜さんです。

2人の大使は、8月6日に広島市で開催されました平和記念式典に市民の代表として参列するとともに、市民が平和の願いを込めて折ったリンドウ色の折り鶴を平和公園の「原爆の子の像」に捧げました。



(井上)

原爆ドームをはじめとする遺構は、何年経っても被爆者の方々と共に戦争の恐ろしさを伝え続けていると感じ、その訴えを私たち若者が忘れてはいけなかったと思います。

(甲斐)

原爆ドームからは、77年たった今でも戦争の恐ろしさが伝わってきました。

川のすぐ近くを歩いた時、今私たちが何も不安に思わず歩いていることが、とても幸せなことだと心から思いました。



8月5日(金)広島到着

(井上)

市長さんから受け取った折り鶴は、とてもずっしりとしていて、市民の皆さんの平和を祈る思いが強くこもっていることを実感することができました。

(甲斐)

市長さんから受け取った折り鶴は、1羽1羽から平和への願いが伝わってきました。折り鶴平和大使になったからには、しっかりとその願いを届けようと思いました。



7月27日(水)市役所にて壮行式

折り鶴平和大使になって

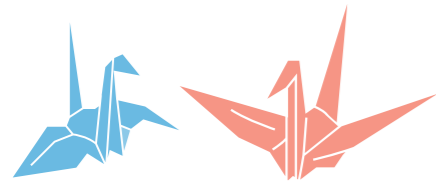


井上 七海さん

平和大使としての活動を通して、原子爆弾は、尊い命を一瞬で奪うだけではなく、被爆した方の心にも一生消えない深い傷を残しました。なぜ死ななければならないのか。自分のせいで死んでしまった。自分がなぜ生き残ってしまったのか。このようなことを考えさせてしまう戦争は、間違っています。世界に目を向け、戦火に怯え苦しんでいる人を、一刻も早くなくしたいと強く思いました。また、私たちが平和に暮らすことができているからこそ、今苦しむ人々に対してできることを考えていくことが大切だと思います。私たちにできることは小さいかも知れませんが、しかし、未来から目をそらさず、思いやり・助け合いの心を持って生活することは誰にでもできることです。互いに声を掛け合いながら、諦めずできることを探して、一歩ずつ世界恒久平和に向けてバトンを繋げていきたいと思っています。

甲斐 純怜さん

平和記念式典に参列したり、被爆者体験談を聞いたり、貴重な体験をさせていただきました。小学生の時に戦争についてインターネットなどで学んだことよりも、さらに深めることができました。平和記念公園のほかに、折り鶴タワーなどにも行かせてもらったのですが、どこに行っても戦争に関連するものが展示されていました。それくらい原爆が落とされた戦争はすごいものだったけど、もう二度と、どこでも原爆は使ってはいけないものだと思います。原爆によって亡くなった数十万人の人々のためにも、これからは平和な世界を自分たちでつくっていかねばならないと思います。



非核平和都市宣言

世界中の人々が等しく平和な暮らしを営むことは、人類共通の願いです。それにもかかわらず、地球上の全生命を滅ぼしてもなお余るほどの核兵器が蓄積され、世界の平和に深刻な脅威を与えています。

わが国は世界で最初の核被爆国として、核兵器と戦争の恐ろしさを全世界に訴え、その惨禍を絶対に繰り返させはなりません。

私たちは祖先から受け継いできた猪名川の清流、豊かな緑、そして人類共通の財産である青く美しい地球を永遠に守り続けていくためにも、核兵器をつくらず、持たず、持ち込ませず、「非核三原則」を遵守するとともに、恐るべき核兵器の廃絶を願い、人と人が憎しみあい傷つけあうことのない世界の創造を求めて、ここに市民の総意のもと、川西市を「非核平和都市」とすることを宣言します。



平成元年(1989年)7月14日
川西市

広島平和資料館を見学

(井上)

折り鶴は、奉納する場所がないほどたくさん捧げられていて、世界中から集まった平和希求の強い思いがひしひしと伝わってきました。公園内ではたくさんの方が折り鶴を捧げている姿が目にとまり、私たちが担う役割の大きさを感じました。

(甲斐)

ケースいっぱいに入った全国からの折り鶴がありました。全国の方が平和を願っているのだと感じました。戦争をしている国や世界の人々に見てもらいたいと強く思いました。



(井上)

資料館では、多くの画像や映像、そのほかにも多くの遺されたものが原爆の恐ろしさを訴えかけていました。今にも「助けて」「水をください」、そう叫びだすような品々に目を背けたくる時もありましたが、当時の人々が感じた恐怖とは比べ物にならないものだと思うと、今の日本が平和であることがどんなに幸せなことかということ、そしてこの平和を守っていかなくてはならないということを感じました。私たちに日々の日常は当たり前ではなく幸せなことであるということをおぼろげに感じて生きていきたいと思いました。

(甲斐)

たくさんの方が真剣に見学していました。資料館には、原爆が投下された当時のままの服やお弁当が展示されていました。元の姿からボロボロになった姿までのことを考えると、とても胸が痛みました。それ以外にも、さまざまな人たちの人生が紹介されている場所がありました。普通に家族や友人と楽しく笑って過ごしたかったはずなのに、原爆が落とされたことで、その普通がもうやってこないのは、言葉に表せられないほどつらかったと思います。もう二度と同じようなことは起きてほしくないと思いました。



折り鶴を捧ぐ

令和4年度 戦争にまつわる体験談

今年度も6人の市民の方から体験談をお寄せいただきました。その内2編ご紹介いたします。

「はじめて見た故郷日本」

大林 美美さん (83歳)

はつきり覚えていないが、忘れたくても忘れられない、この齡(とし)になっても頭にこびりついていることを書き記しておきたかった。

北満(中国東北部)の郷土チチハルで生まれた私は、「宮前在満国民学校」に入学したが、勉強するまでもなく、終戦となった。

間もなくしてロシア人(ソ連軍)が土足で家の上って来た。私はまだ小さかったので何とか逃れられたが、おとなたちは悲惨なものだったらしい。

それから引き上げ者となり、小さいながらランドセルに自分のいるものを詰め、屋根のない貨物列車に乗り何日もゆられた。途中トイレは列車が止まっている間にその下で用をたした。この車中、まともな食事をした覚えがない。

断片的に思い出すのは、暗いギシギシという二段ベッドの上、母も父も兄も姉も誰もいない、まわりには知らない人ばかり、何で一人なんだろうと思ひ、よく聞くと伝染病になつてたみたいだった。真暗な広い部屋に隔離された病人だけがまわりに寝ていた。親も誰もいない。その時、「支那人」の子になるのだと思つた。何もわからず隔離がとけて病院から出てきた時、父母兄弟みんな二行に遅れて待つていてくれた。その時は、夢のような気持だった。

再び貨物列車に乗り、動き出したと思つたら、「頭を下げ！ 頭を出すな！」と叫ぶ声とともに、「ドーンドーン」と鉄砲の音がすると、列車は止つた。すぐに列車を降り、母は弟をおんぶして6歳の私は必死でついていった。先の見えない

い荒原を何キロ歩いたことか。やがて港の貨物船が見えた。その後、息苦しい船底で何日過ごしたことか。ある時、船内にサイレンが鳴り、手を合わせるように言われた。幼いながらも誰かが亡くなったのだなあとと思つた。そんなことがあつても、もう歩かなくて済むんだという思いの方が勝つてた。

明方、「甲板に上れ」と言われ上に行く何と、緑の山々や段々畑、生れて初めてみる景色が眼前に広がっていた。幼いながらも、これが内地(日本のこと)かと思つた。あの景色は今も脳裏に焼付いている。

※中国人の蔑称差別語。原文を尊重しそのまま掲載しています。



「終戦のあとやわ」

安井 弘子さん (89歳)

あと半月余りで終戦という昭和20(1945)年7月、父親代わりの祖父が孤独のうちにこの世を去つた。戦争が苛烈さを増すなか、国民学校5年生だった私は祖父母と浜甲子園に住んでいた。だが、近くに川西航空機の工場があり、敵の攻撃目標になるとして疎開命令が出た。

私と祖母は再婚した母の住む九州熊本へ。祖父は会社の責任者として大阪に残ることになった。間もなく会社が空襲で焼け落ち、祖父は一人篠山へ帰つた。戦禍のさなか、先祖の思いのこもった家屋敷をただ一人で守りながら、見続けていたかたに違いない。

祖父死亡の連絡を受けても、すぐには切符が手に入らなかった。山陽線は不通。やっと山陰線經由の列車で祖母と篠山に向かった。途中敵の艦載機の機銃掃射を受け、列車はストップした。乗客は近くの草むらに逃げこみ、その後

まつ暗な列車で一夜を過ごし、やつの思いで篠山に着いた。祖父はすでに親戚の手で遺骨になっていた。悲しみは深く、私は体調をくずし親戚の家で寝こんでしまった。終戦の知らせは祖母と親戚から聞かされた。やっと空襲の呪縛から解放され、体中の緊張がとけた瞬間であった。やがて元氣を取りもどした私は祖母と復旧した山陽線で帰路についた。記憶は定かではないけれど広島に入った時にとある駅で列車は止まる。窓から見えるホームの前方には、包帯をぐるぐる巻きにした人たちが杖や棒をたよりに立っている。ホームの脇に1台のバスが、かろうじて原形をとどめて焼け焦げていた。いくつもの電線が焼け落ち、垂れさがっている。電柱もくの字に曲がっている。

近くを流れる幅広い川原には牛が2頭倒れている。おなかのあたりが黒く丸く焦げている。何かわからない不気味さを感じた。原子爆弾が投下されたことは、あとで知ることになる。ここから先の鉄橋が破壊されていて、次の駅まで徒歩で渡れとのことだった。どうやって渡りきったのかはよく覚えてない。祖母と私は親切な青年たちに助けてもらった。鉄橋の向こう側に到着した。渡りきる寸前、よつんばいになった時、リュックの口から袋が二つ落ちた。ひらひらと舞い落ち、やがて見えなくなった。

白日のもとに、わが身をさらしても敵からの攻撃はない。戦争は終わったのだ。安堵とうれしさがこみあげてきた。やっと我が家にたどりつき、一番に私のリュックから祖父の位牌を取り出し「ただいま」と手を合わせた。そして位牌に語りかけた。「もつと早くに戦争が終わっていたら、会えたのに、いっぱい、いっぱい、いろんなことをしてあげたかったのに」。

このようにして私の戦後が始まった。



全員の体験談は市のHPに掲載



たぶんかきょうせい 多文化共生(社会)ってなに?

～多文化共生のまちづくりをめざして～



まちなかで、コンビニで、レストランやホテルなどで、観光地でなくても、日常生活の中で外国人と触れ合うことは、珍しいことではなくなりました。

外国人が働く企業も多いですし、学校や保育園などでは、外国にルーツを持つ子どもも増えています。川西市も例外ではありません。

こうした変化の中で、日本人も外国人も、安心して暮らすことができる社会の実現が求められています。キーワードは「多文化共生」です。

誰もが地域の一員としてともに認め合い、互いに力を合わせながら、豊かな地域社会を創っていくために「多文化共生」について考えてみましょう。

多文化共生とは

簡単に説明すれば、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。」をいいます。

今、どれくらいの外国の人がいるの?

2021(令和3)年の在留外国人数は、約**276万人**で、日本の総人口約1億2,550万人の**2.2%**を占めています。約30年前の1989(平成元)年は、98万4千人で、0.8%でした。川西市では、1,417人(2021年)で、市人口の約0.9%の人たちがおられます。

どの国や地域の人が住んでいるの?

在留外国人の国籍・地域数は194か国(無国籍を除く。)となっています。在留外国人数を国籍・地域別に見ると中国が全体の26.0%を占め、以下、ベトナム、韓国、フィリピン、ブラジルの順となっています。

在留外国人の国別人数

順位	出身国	2021年	2015年	川西市(2021年)
1	中国	717千人	666千人	②190人
2	ベトナム	433千人	147千人	③157人
3	韓国	410千人	458千人	①630人
4	フィリピン	277千人	230千人	⑦47人
5	ブラジル	205千人	173千人	⑧20人
6	ネパール	97千人	55千人	⑥56人
7	インドネシア	60千人	36千人	⑤58人
8	アメリカ	54千人	52千人	④59人
9	台湾	51千人	49千人	⑩12人
10	タイ	50千人	45千人	⑧20人
-	※その他	406千人	403千人	※その他 168人

※法務省「在留外国人統計」では、2015年末統計から「韓国・朝鮮」に係る表記を「韓国」、「朝鮮」と区分して表記している。また、「朝鮮」、「インド」に係る市町別の人員数は発表されないため、上記川西市の表では記載していません。

どのように多文化共生をすすめていくのか

～「地域における多文化共生推進プラン(2020年総務省)」から～

施策

① コミュニケーション支援

- 行政・生活情報の多言語化(ICTを活用)、相談体制の整備
- 日本語教育の推進 ● 生活オリエンテーションの実施

② 生活支援

- 教育機会の確保 ● 適正な労働環境の確保
- 火災時の支援体制の整備 ● 医療・保健サービスの提供
- 子ども・子育て及び福祉サービスの提供
- 住宅確保の支援 ● 感染症流行時における対応

③ 意識啓発と社会参画支援

- 多文化共生の意識啓発・醸成 ● 外国人住民の社会参画支援

④ 地域活性化の推進やグローバル化への対応

- 外国人住民との連携・協働による地域活性化の推進・グローバル化への対応 ● 留学生の地域における就職促進

あなたの言葉で人権相談ができます【外国語による人権相談】



法務局人権擁護局

- ①英語 ②中国語 ③韓国語 ④ネパール語 ⑤スペイン語 ⑥フィリピン語 ⑦ポルトガル語 ⑧ベトナム語 ⑨インドネシア語 ⑩タイ語

外国語人権相談ナビダイヤル

0570-090911【平日(年末年始を除く)9:00~17:00】

外国語インターネット

人権相談受付窓口

日本語を
べんきょう
勉強したい



日本語講師ボランティアによる外国人を対象にした日本語講座を開催しております。

日時 毎週木曜日 午後6時30分から午後8時(90分) **場所** アステ川西6階アステ市民プラザ

受講料 2,500円(全10回分) (注)別途、テキスト代が税別で4,500円程度かかります。

電話番号 072-740-1106 ※詳しくは、川西市国際交流協会事務局へお問い合わせください。

最優秀賞



「いつも希望を胸に」

近藤 雅也 さん(萩原台東)

まだ毎日楽しいことばかりの幼い子どもですが、これからもずっと希望をもって育ってほしいと思っています。

令和4年度

第13回

人権写真フォト

コンテスト in かわにし

入賞作品介绍

テーマ『希望』

優秀賞



「おばあちゃんのとらもろこし」

谷 レイ子 さん(笹部)

大正11年生まれの百歳のおばあちゃんが庭の畑で育てているとらもろこしです。おばあちゃんを見ていると未来に希望を感じます。

佳作



「兄ちゃんとおそろい♪」

東畑 優太 さん(向陽台)

佳作



「みんなので
自転車に乗って」
滝井 正典 さん(出在家町)

★拉致問題啓発舞台劇公演 『めぐみへの誓い=奪還=』

入場無料

日時 令和5年1月13日(金)開場13時/14時~16時30分

申込期限 12月26日(月) 事前申込制・先着順

主催 政府拉致問題対策本部・兵庫県・川西市

会場 キセラ川西プラザ・キセラホール

後援 法務省・外務省・文部科学省

問い合わせ 兵庫県人権推進班 TEL078-362-3228

▼申込先



★北朝鮮人権侵害問題啓発週間(12月10日~16日)

~北朝鮮当局による人権侵害問題(拉致問題)に対する認識を深めよう~

啓発パネル展示 ① 川西市役所 市民ギャラリーにて 令和5年1月10日~20日 | ② 川西市総合センターにて 2月20日~24日

クイズ??

次の空欄(○の中)をかん字でうめてください。

- 12月4日から10日は、「○○週間」です。
- 今年度の人権作文コンテストの最優秀賞の題名は、「私の○○」
- 島崎藤村・不朽の名作「○○」を60年ぶりに映画化

※クイズ正解者には、図書カード(1,000円分)を5人に差しあげます。
(正解者多数の場合は抽選。図書カードの発送をもって発表にかえさせていただきます。)

応募方法

ハガキに①クイズの答え、②住所、③名前、④年齢、⑤電話番号、⑥今回の広報じんけんて興味のある記事と感想を書き、下記あて先まで

あて先

〒666-8501 川西市人権推進課「クイズ」係

しめ切

令和4年12月15日(木)消印有効

